

ZAIDAN NEWS LETTER

JAN/2013
VOL.17

HITACHI

Inspire the Next

- ◆公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
- ◆公益財団法人 日立環境財団
- ◆公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
- ◆公益財団法人 日立国際奨学財団
- ◆公益財団法人 日立みらい財団
- ◆日立ファウンデーション(米国)

公益財団法人 小平記念日立教育振興財団

当財団の家庭教育振興事業は、子どもたちの健全育成を推進するため35年前に「家庭教育研究委員会」を発足させ、昨年で開催200回目を迎えました。発足時から委員として活躍いただいている飯長委員長よりご挨拶申し上げます。

家庭教育研究委員会委員長 飯長喜一郎(日本女子大学 人間社会学部 教授)

年頭にあたり、新春をお祝いし、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年の2012年11月、家庭教育研究委員会は200回目を迎えました。当財団は地域文化振興事業と家庭教育振興事業を推進しています。家庭教育振興事業の一環として家庭教育研究委員会が設けられており、家庭教育研究委員会は、1978年(昭和53年)日立家庭教育研究所(横浜市戸塚、以下研究所)の発足と同時に設立されました。そして、家庭教育研究・振興の実践の場である日立家庭教育センター(日立市、以下センター)や、研究所における活動のバックボーンとして、積極的な家庭教育の研究と啓発活動を

推進してきています。委員会は、幼児教育・教育学・心理学・社会学・精神保健学・社会福祉学等の専門家によって構成されています。

具体的な職務としては、センターおよび研究所における幼児教育教室のプログラムと研究の支援とスーパービジョン、家庭教育シンポジウムの企画実行、家庭教育研究紀要の編集(投稿論文の査読を含む)、家庭教育研究奨励金の審査等です。いずれについても相応の議論を要しますので、定例委員会の他にも緊密に連絡を取りながら進めています。

これからも、委員の新陳代謝を図りながら、時代の要請にマッチした活動を進めて行きたいと思っています。

(財) 小平記念日立教育振興財団の事業

● 地域文化振興事業

- ◆小平奨励賞
- ◆小平記念作文
- ◆小平記念教育資金

● 家庭教育振興事業

家庭教育研究委員会

家庭教育研究所
(横浜市戸塚区)

家庭教育センター
(茨城県日立市)

- ◆「親子教室」の開催
- ◆家庭教育研究委員による調査・研究
- ◆家庭教育シンポジウム
- ◆家庭教育セミナー
- ◆家庭教育研究奨励金
- ◆出版物の刊行「家庭教育研究所 紀要」



家庭教育研究委員会の先生方

第23回 駒井メモリアル 家庭教育シンポジウム

乳幼児期の<自己>の育ちの今
—もの・ひとへ自ら働きかける<わたし>と大人の関わり—

日 時：2013年3月9日(土) 13:15~16:30(開場12:30)

場 所：日本女子大学 目白キャンパス新泉山館
国際交流センター 大会議室

参 加 費：無料

定 員：100名(参加申込受付順)

基調講演：0歳児期の生活環境の変化による乳児の経験の変化
高山静子氏(浜松学院大学准教授)

*詳細は財団HPをご覧ください。

小平記念日立教育振興財団

●小平奨励賞贈呈式

茨城県内で長年にわたり地域社会に貢献してきた個人や団体の功績をたたえ、2012年10月24日に第40回小平奨励賞贈呈式を日立市で開催しました。

小平奨励賞	早田恵子さん	障がいのある方とその家族への療育支援や手話の指導を30年にわたり行われました。
	「おはなしポシェットの会」	阿見町立図書館を中心に絵本の読み聞かせなどのボランティアを19年にわたり行われました。
特別賞	「社団法人ライフ・ケア・ひたち」	女性を中心とした協会員と、高齢者援助や育児支援を24年にわたり行われました。

*詳しくは <http://www.hitachi-zaidan.org/odaira/topics/topics197.html> をご覧ください。



●小平記念作文表彰式

2012年12月10日に第41回小平記念作文の表彰式を日立市で開催しました。茨城県内の小中学校から20,067編の応募があり、小学校低学年・高学年・中学校の三部門ごとに、最優秀賞1編、優秀賞5編、奨励賞9編の45編が入賞しました。

◆最優秀賞 受賞者

学校名	学年	氏名	作品名
日立市立助川小学校	3年	原 寧々さん	かんごさんになりたいな
つくば市立栗原小学校	6年	山内 香穂さん	それぞれの思い
城里町立柱中学校	3年	神長 憲悟さん	僕と水源と三百本の木

*詳しくは <http://www.hitachi-zaidan.org/odaira/topics/topics199.html> をご覧ください。



日立みらい財団

●親子ふれあい工作教室 凧づくり・凧あげ

当財団が協賛している八王子BBS会「親子ふれあい工作教室 凧づくり・凧あげ」が今年度も12月8日(土)・9日(日)に八王子市内の小中学校で開催されました。60組120名の皆さんが参加し、楽しい親子ふれあい工作教室となりました。

凧づくりの体験レポート

会場の体育館に、絵の具セットとお弁当を持参した地元の小学生と保護者が集合。受付で、六角形の凧の紙・竹ひご・糸・接着剤が渡されました。開会式のあと、「日本凧の会」の江刺さん・新戸部さん・裏川さんから六角凧の作り方の説明があり、昼食時間までの2時間で、デザイン・色塗り・乾燥を各自作業しました。時間はたっぷりあると思っていたのですが、絵の具がなかなか乾かず、ドライヤーを使用。昼食後、仕上げの糸付けの説明を受けたのですが、とても複雑で、中学生ボランティアに助けをもらい無事完成しました。校庭での凧あげは、走ることもなく風に乗り、空高く舞い上がりました。六角凧の計算



凧にカメラを設置し上空から撮影「日本凧の会」



*BBS (Big Brothers and Sisters Movement) とは、年少少女たちに、同世代の兄や姉のような存在として、一緒に悩み、一緒に学び、一緒に楽しむボランティア活動です。

詳しくは日立みらい財団HP ▶▶ <http://www.hitachi-zaidan.net/mirai/index.html> をご覧ください。

日立国際奨学財団

日立製作所 情報・通信システム社 担当本部長 岩下 直行

●交流ボランティアより ～アジブ君のこと～

アジブ君と出会ってからもう1年になる。財団がインドネシアから招へいた留学生だ。わが家は、昨年末に財団の交流ボランティアに応募し、ホストファミリーとなった。彼は土曜日にわが家にやってくる。お花見や花火大会、端午の節句などのイベントに参加してもらっている。妻も、大学生と高校生の二人の息子も、一緒に手巻き寿司を作ったり、ボーリングに行ったりして、家族が増えたと喜んでいようだ。



アジブ君からインドネシアの歴史や文化を教えられるのも楽しい。例えば、彼は母国語であるインドネシア語とは別に、独自の文字を持つジャワ語で育ち、専門教育は英語で学び、経典を読むためにアラビア語を学んだという。そんな彼に影響を受けてか、息子達も随分積極的に英語で彼と話すようになった。普段から、「アジブに英語でどう説明しようか」と考えているらしい。



私は日本銀行の職員で、現在は日立製作所に出向している立場だ。公的機関である日本銀行では、CSRという言葉を意識する機会は少なかったし、社会貢献

という言葉は何となく気恥ずかしく感じていた。しかし、日立に来てその認識が大きく変わった。日立のCSRは多種多様で大規模だ。社会のため、地域のために役に立つことをしよう、という意識は筋金入りである。社内のCSRイベントに参加して印象に残ったのは、若い女性社員が発した「社会貢献というのは全然特別なことじゃないのだから、それを恥ずかしがる必要などない」という言葉だった。その言葉を聞かなければ、財団の交流ボランティアに応募することもなかったろうし、アジブ君とも出会っていなかっただろう。



先日、アジブ君を東京ディズニーランドに連れて行った。彼は宗教上の理由で肉が食べられない。バイキングのレストランに入って事情を説明すると、係員がシェフと相談して、食べても問題ない料理の一覧表を作ってくれた。彼が定時に礼拝するための場所を借りたいとお願いすると、立派な応接室を使って良いという。外国人を迎えるのに慣れている施設ならではの、日本の優しさをアピールできて、こちらもうれしくなった。

CSRで実際に活動するのは個々の社員である。誰もが社会に貢献したいと思う気持は持っているはずで、それを実現できればとてもうれしい。CSRとは、社員にそのような経験をする機会を与えるものでもあるのだろう。そうした伝統を持つ会社であることを、日立は誇ってよいと思う。

倉田記念日立科学技術財団

●平成24年度(第45回)倉田奨励金贈呈式

倉田奨励金は、科学技術の分野で基礎的、応用的な研究を行う研究者を対象とした助成金で、毎年、財団創設者・倉田主税の誕生日である3月1日に贈呈式を行います。今年度の受領者一覧は、2月中旬に財団ホームページで発表予定です。右記の内容で贈呈式を開催しますので、ご興味のある方は財団事務局までお問い合わせください。

日時:2013年3月1日(金)
贈呈式11:00～記念パーティー 12:00～
場所:経団連会館 ダイアモンドルーム
(千代田区大手町)

日立ファウンデーション

●2012年度 吉山青年起業家が決定しました

日立ファウンデーションは、米国における経済的・社会的弱者の生活向上を課題として、財団が行う3つの主要プログラムを通じて、低所得層の人々とその家族が住むコミュニティのために、持続的な経済機会を創出する経営手法を見出し、普及することをめざしています。そのうちの1つが「吉山青年起業家プログラム」であり、米国低所得層の人々の経済機会の拡大を目的とする持続可能な事業を30歳になる前に立ち上げ、運営している若手起業家の発掘と支援を行っています。

2012年10月、3年目を迎える本プログラムの受賞者に、4つの事業に携わる5人の若手ビジネスリーダーが選ばれました。南フロリダ地域の低賃金労働者を対象とする職業紹介や就労支援の実施、省エネ型の低価格住宅を建設するために必要な技術が学べる教育プログラムの運営、貧しい農村地帯の人々の生活改善および自然との調和に配慮したモデル農業の経営など、事業内容は多岐にわたっていますが、いずれも利益を追求しながら、それぞれが掲げる社会的目的を達成しています。

日立ファウンデーションは、若手リーダーたちの成長を支援するとともに、彼らの経験や教訓を学び、シェアすることによって、人々の生活向上とコミュニティ強化において企業が果たす役割を明らかにし、効果的かつ実践的なアプローチを発見し、広めてまいります。



2012年度 吉山青年起業家と財団関係者

詳しくは日立ファウンデーションHP ▶▶ <http://www.hitachifoundation.org/our-work-ja/yoshiyama-young-entrepreneurs-program-ja> をご覧ください。

日立環境財団

● 「環境NPO助成」受領団体による活動報告会 開催報告

日時：2012年12月1日(土) 13:00～16:45
会場：国立科学博物館 日本館講堂(台東区上野)
参加者：60名

日立環境財団は2年に1回、「環境NPO助成」による活動の成果を発表する場として、報告会を開催しています。第3回目となる今回は、第9回(2010年度)第10回(2011年度)に助成を受けた14の団体が参加し、口頭発表、資料展示で成果報告を行いました。

報告された活動は、自然エネルギーの活用、生態系の保全、地域経済と環境保護の融合、海外での環境活動など、国内外の幅広い分野にわたり、環境分野のNPO/NGO、環境活動に興味のある一般の方々など、会場の皆さんは熱心に耳を傾け、活発な質疑応答も行われました。

会場には、助成事業を行っている他の財団、企業の方々の参加もあり、報告会後に開催した交流会は、NPO/NGO相互の交流だけでなく、財団や企業との連携に向けたネットワーク作りの場となり、和やかな雰囲気のもと親睦が深められました。



● 環境サイエンスカフェ 開催報告

第11回「2011年タイの洪水 —モンスーンアジアの自然と人間を考える—」

講師：松本 淳さん(首都大学 東京都環境学部 教授)
日時：2012年10月24日(水)
18:30～
場所：サロン・ド・富山房
Folio(千代田区神保町)
参加者：44名



第11回サイエンスカフェ・松本 淳さん

第12回「謎の深海生物チューブワーム —共生進化を通して生命の本質を探る—」

講師：長沼 毅さん(広島大学大学院 生物圏科学研究科 准教授)
日時：2012年11月21日(水)
18:30～
場所：サロン・ド・富山房 Folio
(千代田区神保町)
参加者：52名



第12回サイエンスカフェ・長沼 毅さん

◆ 次回予告

第13回 2013年2月13日(水)
「鳥の渡りと地球環境の保全
—世界の自然をつなぐ渡り鳥—」
樋口 広芳さん
(東京大学名誉教授、慶應義塾大学特任教授)



第12回サイエンスカフェ・質疑応答の様子

環境サイエンスカフェの内容は、財団ホームページ、「季刊 環境研究」で逐次公開して行きますので、是非ご覧ください。
会場の様子や今後のスケジュールは、ホームページの他、facebookでも随時発信しています。

 日立環境財団 Facebook <http://www.facebook.com/hitachi.kankyo>

▼ ホームページ ▼

<http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/index.html> をご覧ください。

編集後記

今回は小平記念日立教育振興財団の家庭教育研究委員会200回記念の紹介を致しました。親と子の教室プログラムを行っている日立市の日立家庭教育センターには97組の0歳児から3歳児とそのお母さんが、横浜市の日立家庭家研究所は169組の1歳児から2歳児とそのお母さんが通われています。それぞれの行事の様子や教室の募集などをホームページで紹介しておりますのでご覧ください。3月9日の家庭教育シンポジウムも是非ご参加ください。次号は4月にお届けする予定です。



本ニュースレターに関するご意見・ご感想等がございましたら、財団までお寄せください。お待ちしております。

公益財団法人 小平記念日立教育振興財団	✉ odairakinen@hdq.hitachi.co.jp	TEL 03-3257-0850
公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団	✉ kurata@hdq.hitachi.co.jp	TEL 03-3257-0852
公益財団法人 日立環境財団	✉ kankyo@hdq.hitachi.co.jp	TEL 03-3257-0851
公益財団法人 日立国際奨学財団	✉ scholarship@hdq.hitachi.co.jp	TEL 03-3257-0853
公益財団法人 日立みらい財団	✉ mirai@hdq.hitachi.co.jp	TEL 03-3257-0850
所在地 〒101-8010 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDXビル21階		
日立ファウンデーション(米国)	✉ shakai.koken.qm@hitachi.com	TEL 03-4564-5040

*日立ファウンデーションについてのお問い合わせは(株)日立製作所 CSR本部 社会貢献部まで。



発行日：2013年1月31日発行
発行責任者：神山 和也
編集責任者：寺村 奈津季
印刷：日立インターメディアックス(株)

財団ホームページ ▶▶▶ www.hitachi-zaidan.org